

嘆きから讃えへ

詩篇二二篇

わが神、わが神／なぜ私をお見捨てになったのか。私の悲嘆の言葉は救いから遠い。(2)

この詩は、主イエスが十字架上で口にされた言葉として知られています。理由の分からない苦しみほど耐え難いものはありません。私たちは人生の旅路の中で、このような嘆きの言葉を口にすることがあるでしょう。神を信じる者たちの人生にも荒波はやってくるからです。ところがこの詩は後半になると語調は一変し、神を讃える歌に変わります。詩人の嘆きが讃えに変わったその秘訣は22節にあると言われます。「あなたは私に答えてくださった」。詩人は「祈りは聞かれた」という信仰に立ったのです。置かれている状況は変わらなくとも、信仰によって彼の見方は変わりました。そのとき、彼の心に賛美が生まれたのです。私たちの生涯にも、「なぜですか」と叫ぶような苦しみが訪れます。けれども、主に信頼していく人生は、嘆きでは終わりません。祈りの中で嘆きが賛美へと変わるのです。